

【児童への話】

先週から始まったサッカーW杯カタール大会で、日本代表サムライブルーが頑張っていて戦っています。今の日本代表の中には、前回のW杯に出場できず、悔しい思いをエネルギーに変えて4年以上練習してきた選手もいるそうです。皆さんも、一回の失敗でくじけるのではなく、自分のために頑張り続けることができる人になってください。

さて今日は、「冬に関することわざ」について、お話しします。

校長先生は、12月生まれです。だから、というわけではありませんが、冬が好きです。温かくて楽しいことがたくさんある春夏秋冬ももちろん好きですが、冬は、夜の時間が長い分、自分をじっくりと見つめ、考える時間が増えるように思います。自分の内側、内面が成長する感じがするので、冬がとても好きです。今日は、冬という言葉を使ったことわざを、ふたつ紹介します。

ひとつ、「夏は日向を行け 冬は日陰を行け」これは、「夏にはあえて暑い日向を、冬にはあえて寒い日陰を歩くように、つらい道を選んで自分を強く鍛えなさい」という意味です。ちょっと今の時代にはそぐわない考え方かもしれませんが、気持ちは分かる、といったところでしょうか。

ふたつ、「冬来たりなば 春遠からじ（ふゆきたりなば はるとおからじ）」有名なことわざですが、元はイギリスの詩を日本語に訳したものです。これは、「つらく厳しい時期を耐え抜けば、必ず幸せがめぐってきますよ」という意味です。冬という言葉のもつ暗いイメージを消してくれる、校長先生がとても好きなことわざです。

ことわざには、昔の人の知恵やよい考えがつまっています。番町の書齋やごろんちょには、ことわざ辞典がありますので、興味がある人は、いろいろなことわざを調べてみてください。言葉を知るとは、世界を知ることです。本と親しみ、楽しみながら世界を広げていってくださいね。

今日は、「冬に関することわざ」についてお話ししました。

【本講話について】

残すところ2学期も、今日を入れてあと20日の登校となりました。朝晩の気候はすでに冬です。校長室に健康観察を届けに来てくれる子どもたちからは、「朝起きるのがつらくなってきた」という話をよく聞きます。10月の運動会、11月の学芸会を終え、慌ただしさを忘れて残りの日数を穏やかに過ごして欲しいと思います。

本日は、冬にまつわることわざを子どもたちに紹介しました。ことわざに限らず、昔から語り継がれている言葉には、普遍的な価値があるものです。ひとつの詩が心に栄養を与え、つらいときの支えになってくれることもあります。様々な言葉に触れ、世界を広げ、豊かな心を育てて欲しいと願っています。